

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503437		
法人名	有限会社 ケアテック		
事業所名	グループホーム あかね		
所在地	北海道札幌市白石区東札幌5条4丁目1番7 (電話) 011-837-8502		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年9月16日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(平成20年8月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000~30,000 円	
敷金	(有) 40,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 84.6 歳	最低	64 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭町医院・きよみず公園クリニック・日之出歯科診療所
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄駅に程近く、国道沿いに位置し、共用空間では、利用者が集い職員との会話で常に笑い声が聞こえていたり、観葉植物や利用者手作りの作品が飾られ明るい家庭的雰囲気を感じられます。また、職員間の意思疎通も良く、チームとしてケアを実践している様子が伺えると共に、車椅子を使わないケアを心掛け身体機能の維持・向上への取り組みや一人ひとりの希望や思いを尊重した日常生活が過ごせるような支援も行われています。児童会館の児童との交流では、日常的な相互訪問や子供達手作りのカレンダーを毎月持参してくれていたり、町内の方達が健康体操教室をホーム内で開催するなど地域との交流促進にも取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握について改善点が見出されていましたが、認知症ケアに有効とされるセンター方式のさらなる活用で過去の大事な出来事や生活歴が把握され介護計画に反映されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全ての職員が行い、新たな気づきや改善の機会として利用されています。また、外部評価の結果については、カンファレンス等で話し合わせ改善のための意見交換が行われ運営推進会議にも報告されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、本年度 評価日現在3回実施されています。議題は 高齢化社会の現状と福祉について 高齢化の推移と将来推計について 札幌市の高齢化の実態について 高齢社会対策について 介護サービス利用の流れについて(資料参照)
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 個々の家族に応じて、ホーム行事参加や買物などの日常生活の様子や毎月の行事参加のお知らせ、健康状態など「あかね便り」を発行して、情報提供されると共に認知症の基礎知識など連載して理解や広報活動にも取り組んでいます。また、運営推進会議での意見交換で運営に反映するなどケアサービスの質の向上に取り組まれています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会との連携で、健康体操教室の開催や日常的な児童会館の児童との相互訪問を通じた交流、社交ダンスなどの地域ボランティアの積極的な受け入れなど日常生活を通じて取り組みが実践されています。また、地域の人達が気軽に訪問できるようにホーム行事参加の案内や運営推進会議でホームの取り組みへの理解が深まるように広報しています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして事業所独自の理念、基本理念、ケア理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、業務計画に基づき短・中期の目標を具体的に設定し、理念達成に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会との連携で、健康体操教室の開催や日常的な児童会館の児童との相互訪問を通じた交流、社交ダンスなどの地域ボランティアの積極的な受け入れなど日常生活を通じて取り組みが実践されている。また、地域の人達が気軽に訪問できるようにホーム行事参加の案内など広報に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全ての職員が行い、新たな気づきや改善の機会として利用されている。また、外部評価の結果については、カンファレンス等で話し合わせ改善のための意見交換が行われ運営推進会議にも報告されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、本年度 評価日現在3回開催されている。委員は、家族、近隣住民、包括支援センター、児童会館館長、まちづくりセンター所長、管理者・職員で構成され具体的に取組んでいる。</p>		<p>特筆すべき点として、運営推進会議に於いて、札幌市の協力を仰ぎながら札幌市の高齢化の現状など具体的活動に取り組まれている。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、運営推進会議以外にも札幌市との連携について具体的に取り組みケアサービスの質の向上に活かしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム行事参加や買物などの日常生活の様子や毎月の行事参加のお知らせ、健康状態、職員の異動など「あかね便り」を発行して、情報提供されていると共に認知症の基礎知識など連載して理解や広報活動にも取り組んでいます。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に、健康状態についての不安な点や要望などについて、意見を表せる機会を設けています。また、運営推進会議での意見交換で運営に反映するなどケアサービスの質の向上に取り組まれている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職率は低く安定している。また、来訪者や利用者に分かり易いように共用空間の見やすい場所に職員の写真が掲示されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	札幌市や区主催の合同研修会など外部研修参加を奨励している。また、カンファレンスなどで薬の効能や認知症の法人内の研修が実施されている。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者は、管理者会議や区の研修会で同業者との交流や情報交換が行われケアサービスの向上に活かされている。		今後は、職員の他事業所との相互訪問などができるよう取り組まれることを期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には利用者・家族の見学や家族・居宅の事業所から情報をもらうなどで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員と一緒に畑仕事を楽しんだり、調理や塗り絵、雑巾縫い、紙細工など行い支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握について認知症ケアに有効とされるセンター方式のさらなる活用で過去の大事な出来事や生活歴が把握され介護計画に反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報やカンファレンスで職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に定期的に評価を行い、見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、看護師や医師などの往診や通院への支援など柔軟に行っている。また、散歩や買い物、ドライブや外食などにも支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医や看護師、協力医との連携で適切な医療が受けられるように支援している。また、医師・歯科医師の往診など医療連携が行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、医師と利用者・家族などと相談しながら対応するよう職員間で共有されている。また、札幌市主催のターミナルケアの研修会にも参加している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけなど支援されている。また、接遇や言葉かけなど職員間で話し合われている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースや思いを大切に、雪祭りや花見、動物園や水族館などの訪問やスーパーでの買い物、戸外での焼肉など本人の希望に沿って支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。週末には本人の希望に沿ったメニューを提供している。		今後は、ホームの取り組みについて家族や運営推進会議の委員に積極的にアピールしていくことを期待します。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに応じて入浴日は決めずに対応している。また、拒否の強い利用者にも工夫した支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした花札ゲームや踊り、カラオケでの歌唱、紙細工や雑巾縫いなどの趣味や気分転換のための戸外での焼肉など支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やスーパーでの買い物、動物園や花見見物、水族館や図書館訪問など日々の希望や意向に沿った支援がされている。		特筆すべき点として、日々の生活の中で積極的に散歩や買物などの外出を支援し、車椅子を使わないケアを心がけ効果をあげている。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は、鍵をかけていない。また、利用者が外出する時は、職員が見守り安全で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て、火災避難訓練や救急救命訓練が実施されている。また、資格を持った防火管理責任者が配置されている。</p>		<p>今後は、緊急時に地域住民の協力が得られるように呼びかけていくよう計画されているので、実施されていくことを期待します。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され、具体的な水分・食事摂取量も記録されている。また、法人内の栄養士の指導・アドバイスも受けて支援されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下や居間などの共用空間では、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、利用者が居間に集い職員との会話で常に笑い声が聞こえていたり、観葉植物や利用者手作りの作品が飾られ明るい家庭的雰囲気を感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、縫いぐるみや家族の写真などが飾られたり、仏壇や使い慣れた家具、テレビなどの家電製品が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせる場となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。